

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

Since 2013



Vol.28
3・4月号

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



趙 静 & 阪田 知樹

横浜の あかり映すや 春の水

／渋柿 横浜支部(P.14掲載)

== INDEX ==

Pick Up Artist

**阪田 知樹 (ピアニスト)
澤登 翠 (活動弁士)
劇団 俳協**

『東へ西へ』

さくらプラザ 自主事業レポート

アイシングクッキーで Xmas ツリーをかざろう★
しゅんさくの部屋
クリスマスツリー点灯式／ミニコンサート

連載

なるほど！ THE LEAPS の戸塚お稽古道場
ユーザーズ・ヴォイス
吹奏楽の達人
男は背中で物語る 戸塚見返親仁
出張！ 戸塚新聞

ピアニスト
さかたともき
阪田 知樹

~ピアノを探求し続ける、若きピアニスト~

横浜とハノーファー(ドイツ)を拠点しながら活躍している若手ピアニストが2018年5月9日(水)さくらプラザに初登場。

ひたむきに、そして真摯にピアノと向き合う阪田さん。

多くの賞を受賞し、横浜から世界へと羽ばたくピアニストに今後も注目です。

—まずは、2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞の受賞、おめでとうございます。

ご縁があり、こうしてさくらプラザ・ホールにご出演いただけたこと、大変嬉しく思います。

阪田 知樹(以下、略) :地元である横浜市で認めていただけた、大変光栄に思っております。

これまでお世話になり、関わってきた全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。本当に有難く思います。

改めて「音楽の道を貫いていく」という強い気持ちを確認しました。まだまだ未熟な私ですが、この賞の名に恥じぬよう、この横浜の地から世界へ羽ばたけるよう、生涯にわたり精進し、皆様に音楽を通じた御恩返しができればと思っております。そしてここ、さくらプラザ・ホールで演奏させていただけますこと、心より嬉しく思います。

—2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクールではアジア人男性として初優勝を飾られましたが、好きな作曲家はいらっしゃいますか?

「好きな作曲家は?」という質問は度々受けるのですが、実は、いつも答えに困っています(笑)。

それは、古今東西の作曲家が各々素晴らしくて、比べることが出来ないからです。ですが、敢えて絞り込んで申し上げると"ピアニスト 阪田 知樹"としては、リスト、シューマン、ラフマニノフ。作曲家 阪田 知樹(*)としては、バッハ、モーツアルト、ドビュッシーです。(※同氏は作曲家としても活動している)

とはいって、リストは私にとって特別な作曲家です。初めてリストの作品に出会った時、今まで他の作曲家に取り組んだ際には味わったことのない感触を覚えました。なぜこんなにも音が多いのだろうか、このような展開にしたのだろうか、など様々な疑問が沸き起こり、もっと彼の音楽を知りたいと思うようになりました。

まずはリストのピアノ作品を、その後にはリストの様々なジャンルの作品を研究するようになり、リストに関する書籍



©HIDEKI NAMAI

など見つけては読んでいました。気が付いたら、リストが音楽生活の中心的な存在になっていて、それと同時にリストの真価が一般に充分に伝わっていないのではないかとまで感じるようになりました。そのような理由で、自分の音楽活動を通して、リストの音楽の様々な面をお伝えしていくいと思うようになりました。

—リストを演奏する上で気を碎いていらっしゃることは?

とかくピアノでの超絶技巧のイメージが強いかと思いますが、彼の作品に現れる超絶技巧は常に作曲家の内にある感情(あるいは、表現)に結びついているものなのです。楽譜に閉じ込められている悲しみ、喜び、などの様々な感情を聴き手の皆様にお届け出来るように常に心を碎いています。

—数々のコンクールに出場され、受賞されていますが、コンクールの際に気を付けていることはございますか?

一番は体調管理です。コンクールのタイプによっても違うと思いますが、2週間近く長期のものや期間は短くても要求されるレパートリーが膨大である等、とにかく体力は必要です。精神力はもっと必要かもしれません。これらは、演奏会などでももちろん重要なことですが、コンクールでは、不必要な緊張感がどうしても出てきやすい環境に置かれます。これにどう対処するかが大事なのではないかと思っています。誰もが皆、普段通りの演奏をしたいと思っているはずですから。少なくとも私の場合は、できるだけ普段通りに演奏したいと考えています。これはなかなか難しいことなのですが……。

—ピアニストは幼少の頃から目指されていたのでしょうか?

ピアノを始めたのはそれほど早い時期ではありませんでした。5歳半位です。それは、遊びのように始まりました。

始めてからしばらくは、普通にお稽古の一環という気持ちでしたし、あまり練習に時間を割くこともありませんでした。母が音楽好きで、家にはいつも何かしら音楽が流れている環境でしたが、クラシックが多かったと思います。幼少期に気に入っていたCDをよくかけてもらっていましたが、気に入らないものは「もうこれはかけない!」とお願いしていたそうです。

—プロを目指すきっかけはございましたか?

ある大きなホールで、海外のアーティストによるピアノリサイタルを聴いたことだと思います。リサイタルに連れていったら、その時が初めてではなかったのですが、素晴らしい演奏の後に、満席の会場から大喝采を受けているピアニストの姿を見て、「これは何?!」と、とても惹きつけられたのを覚えています。



©HIDEKI NAMAI

余すところなく時に繊細に、そして、時にダイナミックに奏でるのが趙靜さんの魅力です。世界中の様々な場面で活躍をされているので、本番の舞台上で一体どんなアンサンブルが生まれるのか本当に楽しみにしています。

プログラムは、ドイツ音楽を中心としています。

名曲揃いのチェロ・ソナタですが、「ベートーヴェン: チェロ・ソナタ第3番」と「ブラームス: チェロ・ソナタ第1番」は、その中でも演奏機会に恵まれることの多い代表作です。

ベートーヴェンから聴くことの出来る明るさと優しさ、対照的なブラームスの厳しさと哀愁。いずれの作品もチェロとピアノが共に活躍する作品なので、ピアノとチェロの対話を楽しんでいただけます。また今回は、チェロとピアノのデュオ作品だけでなく、ピアノソロの演奏もありますので、ピアノの魅力も存分にお聴きいただけると思います。

一夜でチェロとピアノの名曲を併せてお楽しみ頂ける機会は、なかなかないのでは?と思いつますので、是非この機会をお聴き逃しないよう、皆様にお越しいただきましたら嬉しいです。

—ありがとうございました。

(構成:石村里美)



阪田 知樹(ピアノ) Tomoki Sakata

2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、併せて6つの特別賞受賞。コンクール史上、アジア人男性として初の優勝を果たす。

19歳で第14回ヴァン・クリバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞。第35回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、及び聴衆賞等5つの特別賞。第12回クレムリン音楽祭では、オーレ・リスト・プログラムでのリサイタル出演。故ニコライ・ベトロフにより「世界一のリスト」と絶賛される。

2015年リスト・ショパン・ドビュッシー・スクリヤービンを収録したデビューCDアルバムをリリース。

5歳よりピアノを始め、西川秀人、渡辺健二、パウル・バドゥラ=スコダ、アリエ・ヴァルディの各氏に師事。東京藝術大学を経て、ハノーファー音楽演劇メティア大学ピアノ科修士課程に在籍。

1993年名古屋市生まれ、横浜市・ハノーファー在住。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

さくらプラザ開館5周年記念
趙靜・阪田知樹 デュオコンサート
2018年5月9日(水)18:30開演(18:00開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。



活動弁士 澤登 翠

～映像・語り・音楽が揃ったライブパフォーマンスをお届け!～

昭和初期にかけて、無声映画に合わせて登場人物のセリフやストーリーを語った活動弁士(弁士)。日本独自の文化として、最盛期には全国で7,000人を超える弁士が活躍していたそうです。しかし現在で弁士を生業としている方は、残念ながらわずか。4月13日の「名作無声映画上映会」では、日本国内だけではなく、海外でも活躍する数少ない弁士である澤登 翠さんが登場されます! 弁士としての活動、無声映画の魅力を伺いました。

—まずは、活動弁士になられたきっかけを教えてください。

澤登 翠(以下、略):

大学卒業後就職したのですが、自分が本当にしたい仕事なのかわからなくて。そんな時に無声映画鑑賞会で溝口 健二監督の「滝の白糸」を観て、その素晴らしさに感動したことがきっかけですね。

無声映画自体は観たことはありました、音楽や語りが入る、いわゆる「活動写真」として一種のライブパフォーマンスになるといった体験は初めてでした。臨場感があり映画が立体化すると言いますか……とても新鮮でしたね。

まさに弁士をされていたのが、師匠である松田春翠先生でした。当時は若い世代の弁士がいなかったので「やつてみませんか?」とお誘いいただき、恐る恐る弟子にしていただきました。

—どのくらい修行を積まれたのでしょうか?

弟子入りのきっかけになった鑑賞会が1972年の秋だったのですが、それから1か月半くらいでデビューしました。チャップリンの「スケート」という短編作品です。先生の事務所で16mmフィルムを観せていただき、家へ帰り台本を書きました。当時はビデオやDVDがない時代ですから、再生を繰り返すとフィルムが傷んでしまうためほんの数回ですね。最初に驚いたのは、弁士が台本を書くということ! 自分の言葉で語って良いということが新鮮でしたね。

—台本がないということは、1からご自身で書くのでしょうか?

もともとの映画に字幕とあらすじはあります。字幕と字幕の間にある状況説明やセリフを考えるんです。そのため、弁士によって映画の解釈も多少違いますし言葉も違うんですよね。もちろん語り方も声も違う。同じ映画を観たとしても弁士によって印象が違うということが、面白さだと思います。

—過去にご自身が弁士を務めた作品でも、台本を見直すこともありますか?

はい、加筆訂正したりもします。何年か経って同じ作品を見直すと、経験を積んでいくに従って見方が変わったりするんです。“台本が完成した”ということはない気がしますね。



—一番で“アドリブ”を入れるということもあるのでしょうか?

ありますよ! アドリブで1時間くらい話してしまったこともあります(笑)。お客様がすぐノッてくださると、アドリブが出やすくなるかもしれません。笑っていただけると嬉しいですね。

—上映中、ご自身の感情が高まり泣いてしまうこともありますか?

ありますね! ただ、弁士として伝える役割があるのでグッとこらえます。

—今回さくらプラザでは、新垣 隆さんがピアノを演奏されますね。

新垣さんのピアノの音はとても綺麗! 聴いていると、とても清らかな気持ちになります。弾き始めの第一音から音に透明感があるんです。長く一緒に活動してきましたが最近はなかなかスケジュールが合わなかつたので、今回ご一緒できて本当に嬉しいです。

—海外での活動についてお聞かせください。欧米では活動弁士という文化はあったのでしょうか?

文化として根付いたというのはあまり聞かないですね。映画初期の頃、ストーリーを説明する人はいたようですが、長くは続かなかつたそうです。タイなどアジアの中でも特に日本は一番盛んで、“無声映画に弁士と楽団がついて上映する=活動写真”という日本独特の形態が40年近く続きました。他の国よりも、日本では無声映画時代が長かったんですね。

海外では、映画そのものはもちろんのこと、弁士に対する興味も持つていただき、毎回とても喜んでいただけます。

日本の映画監督というと、小津 安二郎さんや黒澤 明さん、溝口 健二さんなどが海外でもよく知られています。その他にも素晴らしい監督はいますが、例えば斎藤 寅次郎さんはまったく知られていません。彼の「子宝騒動」というとても面白い喜劇を上映すると、「斎藤 寅次郎という監督を知ることができよかったです! 日本は悲劇作品が多いと思っていたが、こんな喜劇もあるなんて!」という感想をいただきます。海外で上映すると、活動弁士の文化とともに日本映画の発見があるようで、とても嬉しいですね。

—上映作品について教えてください。

まず1本は、短編「チャップリンの冒険」です。彼はさまざまなシチュエーションで喜劇を展開していくが、こちらは脱獄した囚人役として珍騒動を巻き起こしていく作品。

チャップリンは指先・足先から目からすべて、体を細かく使った身体芸が得意な方で、こども向けに上映すると彼が動いただけで、ドッと笑いが起きます。大人が気づかないことでもこどもは目から脳にすぐ反応がいくので、チャップリンが少し何かしただけでも面白いんですね。それほどチャップリンの芸は細かくて、ひとつひとつの動作が考えられて作られているんです。

もう1本は、「オペラ座の怪人」です。何度もミュージカルや映画化されていますが、1925年に上映された最初期の作品。怪人役のロン・シェイニーは「ノートルダム・ド・パリ」などにも出演している名優です。悲しい話ではありますが、クリスティーヌへの愛に胸を打たれる名作です。

オペラ座の地下に長年住み、鬱屈した気持ちを抱えて生きている怪人に、つい私は感情移入をしてしまいます。新垣さんが素晴らしい曲をつけてくださるでしょうし、ぜひ楽しみにしていてください。

—最後に戸塚のお客様へメッセージをお願いします。

チャップリンのパントマイム芸の素晴らしさ、そして「オペラ座の怪人」では、怪人の心情を感じ取っていただけると思います。新垣さんのピアノ演奏が各作品をどのように表現し寄り添って奏でてくれるのか、弁士として、とても楽しみで



す。感受性がとても豊かな方ですので、映画の本質をくみ取った素晴らしい演奏をしてくださるはずですので、私もお客様とともに楽しみたいと思います。多くの方にお越しいただけますと嬉しいです。

—ありがとうございました。

(取材・構成・写真／桑田 春花
撮影協力：古石場文化センター)

*活動写真…日本に無声映画が入ってきたのは明治29年。当時無声映画は「活動写真」と呼ばれ、弁士とともに音楽を演奏する樂士によって成り立っていた。／「イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑(原書房)」より



澤登 翠(台本・語り) Midori Sawato

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。

日本の伝統芸芸「活弁」の第一人者として、国内を始め仏、伊、米他海外にも招聘され公演している。洋画、現代劇、時代劇とレパートリーも豊富。

活弁の継承者としての活動が評価され、これまでに文化庁芸術祭優秀賞、文化庁映画賞他を受賞。無声映画鑑賞会での公演を基盤にフィルムセンターや各地の映画祭での公演、大学他での講座、TV番組のナレーション、朗読とその活動は多岐にわたる。

2015年、「文藝春秋」に掲載の「日本を代表する女性120人」に選出、2017年3月には松尾芸能賞特別賞を受賞している。



新垣 隆(ピアノ・作曲) Takashi Niigaki

桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。作曲を南聰、中川俊郎、三善晃、ピアノを森安耀子、指揮法を高階正光の各氏に師事。

作曲家ピアニストとして多岐にわたり精力的に活動を展開している。ピアニストとしては数々の演奏家たちと同じ舞台に立つ他、サイレント映画の伴奏も数多くこなし、作曲家としては、現代音楽を主体としているが、ジャンルはその枠におさまらない。映画やC M音楽の作曲も手掛けている。

最近ではテレビ・ラジオ番組に出演し、親しみやすいキャラクターとして、今までとは違う一面も見せ輝きを増している。



さくらプラザ開館5周年記念
活動弁士＆ピアノ演奏付
名作無声映画上映会
「チャップリンの冒険」「オペラ座の怪人」
2018年4月13日(金)14:00開映(13:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。

劇団俳協 ミュージカル あらしのよるに

このミュージカルを通して、何かひとつでも感じて帰ってほしい!

©きむらゆういち・作 あへ弘士・絵 講談社「あらしのよるに」シリーズより

ゴールデンウィークにさくらプラザでミュージカルが上演されます。

演目は絵本などでも有名な「あらしのよるに」。

オオカミとヤギの不思議な友情を演じるのは劇団俳協の皆さまです。今回は主役のガブとメイを演じるお二人にお話を伺ってきました。



むらかみりゅうたろう
村上 龍太郎さん／オオカミのガブ



みやけ まい
三宅 真衣さん／ヤギのメイ

—お二人がミュージカル俳優を目指したきっかけをお教えてください。

三宅 真衣(以下、三宅):きっかけは「あらしのよるに」の作品なんです。学生時代は放送部だったのですが、朗読で全国大会に出場したことがあります。でも、アナウンサーというよりはお芝居をすることの方が好きでしたね。初めて演劇に触れたのは、高校の時に地元で結成された町民劇団に所属した時です。ダンスは大学に入ってから始めました。劇団のオーディションを受けたときは自分でボイストレーニングに通ったりもしていましたよ。ミュージカル俳優になるために特別に何かを習ったりはしていませんが、演技も歌もダンスも、全部もともと好きでした。ミュージカル「あらしのよるに」を鑑賞し、とても感動して、自分もその公演に出てみたい、と思いミュージカルの世界に入りました。

村上 龍太郎(以下、村上):

僕はもともと声優を目指して専門学校に通っていました。でも、いざ「卒業」となると進路をどうしようかと悩みました。担任の先生が演劇をされていた方だったので、自分も舞台の道に進んでみようかなと思い、この劇団に入りました。舞台での仕事だけでなく、声の仕事もありますし、「演技をする」というところに関しては声優と同じなので、目指していたものと全く違うわけではないです。でも、僕もミュージ



カル俳優になるということは考えていなかったですね。劇团に入ってから、なるほど、こういうことをしているんだな、と(笑)。

—声優を目指して学んでこられたのが、お芝居、さらに歌やダンスも人前で演じなくてはならない……。この変化に戸惑つたりはされなかったのですか？

村上:僕はだいぶ戸惑いました(笑)!もともとが表に出ない方をやろうと思って入団したので……。入団したての頃は、「もっと前に出て!」「前を向いて!」とよく言われていましたね(笑)。

—舞台に立つときは今でも緊張されますか？

三宅:最初の頃はすぐ緊張していたと思います。でも今は稽古中とか、舞台袖にスタンバイしている時の方が緊張しますね。一步舞台に出てしまうともう緊張はなくなります。

村上:基本的に緊張はします。ただその緊張感の中でやるべきことがあるので、そこに意識を集中させています。良い緊張感を保って、ということですね。僕の場合は多分、やるべきことに追われていないとダメなんでしょうね。なので、お客様の顔はなるべく見ないようにしています。見てしまうと集中していた意識がハッキリ返ってしまうので……。でも周りも見えないので、難しいですね。

—「あらしのよるに」の出演が決まった時の率直な感想をお聞かせください。

三宅:この世界に入るきっかけが「あらしのよるに」でしたし、劇団俳協に入団するときからこの作品を上演していることを知っていて、稽古見学や本番の公演も何度も観に行つたりして本当にあこがれていたので、その作品に自分が出演できると思ったら、ただ単純にうれしかったです。



村上:僕はすでにここで役者をしていて、ミュージカルよりも演劇ばかりをしてきていたので、「あらしのよるに」に出演が決まった時は、「え!？」という感じ。僕がミュージカル!?という衝撃の方が大きかったですね(笑)。

—いろいろな公演に出演されていらっしゃいますが、異なる演目を同時に稽古する際、役の切り替えが大変ではないですか？

三宅:異なる役を同時進行で演じることもあります。動物と人間とか。

村上:時々めざります。他の公演で侍の役を演じていると、「あらしのよるに」のオオカミに侍の要素が入ってしまったとか(笑)。お客様には分からないとは思いますが、出でているメンバーは、あれ?なんか違う?と違和感を感じていると思います。

—動物を演じるために参考にしたことはありますか？

三宅:ディズニーの「くまのプーさん」を研究しました。演出家の方から、私が演じるメイは、「女の子か男の子かどっちだろう?とお客様に想像してもらうために、どちらでもなく演じてほしい」と言われまして。オオカミのガブとの友情を描いているのですが、どうしても男女の恋愛みたいになってしまふんです。男の子っぽく演じようとすると動物ではなく人間っぽくなってしまって……。そんな時にプーさんを観て、こんな風にのほほんと演じてみようかなと真似してみたら、演出家の方のイメージにも当てはまり、今では本番前にはプーさんの動画を観たりしています(笑)。

—実際の動物を研究するものだと思っていたが、違うんですね！？

村上:表現方法の取り入れ方は様々ありますね。実際に動物園に行って演じる動物の特徴をつかみ「動物を演じる練習」をすることもあります。僕の場合はオオカミを演じるにあたり、カンフーを取り入れました。使えそうな動きを取り入れるのですが、本物の動物の動きももちろんエンセンスとしては入っています。いろいろな要素を積み上げていって1つの個体を演じるといった感じです。

—「あらしのよるに」は絵本・テレビ・朗読などすでに多くの方が知っていて、作品のイメージが強いかと思うのですが、舞台化する上で何か苦労したことはありますか？

村上:あまり絵本に影響されたり、寄せていました、というのはありませんでした。作品のイメージというよりも、ガブ、メイを中心に、立ち位置、関係性など、それぞれの役割を果たすことが大切だと考えています。

三宅:この作品を絵本やアニメで知った方など、この作品をもともと知っている方が観ても、私たちが演じているものがみんなの知っている「ガブ」であり、「メイ」であるように心がけています。生身の私たちだからこそできることもある、と思って演じています。

—お気に入りのシーンはありますか？

三宅:ピクニックに行ってガブとメイが初めて会うシーンが好きです。歌やダンスもあり、明るく楽しいコミカルなシーンなので楽しんでいただければと思います。あとは“友情”など、メッセージ性が強い作品ですのでそこも感じとっていただきたいです。

村上:僕は、ずっと怯えていたガブが最後にメイの為に立ち向かっていくシーンが、すごく好きです。ガブの心情の変化を観てもらいたいです。

—このミュージカルを通じて、観客に伝えたいことをお伺いします。

三宅:この作品は友情がメインのテーマだと思うんです。ガブとメイはオオカミとヤギで、種族も違えば食べる側と食べられる側という立場にあります。でもそれを乗り越えて友達になります。それをご自身に置き換えて考えてみてほしいです。考え方や意見の違う相手、身体的に自分と違ったりする相手など、身近な関係で良いので、自分とは違う誰かとの関係を考えるきっかけにしていただけたらと思います。

村上:ガブとメイが築き上げていく友情の流れ、積み上がるものの観て感じていて欲しいです。それを受け取る方も違えば、感じ方も違うと思います。観ている方がこのミュージカルを通して、何かひとつでも感じて帰っていってくれたらいいなと思います。

—たくさんのお話をありがとうございました。

(取材・構成／山上由布子・板澤桂子)



さくらプラザ開館5周年記念

劇団俳協 ミュージカル「あらしのよるに」

2018年5月3日(木・祝)

1回目 11:00開演 / 2回目 14:00開演

*詳細は裏表紙をご覧ください。

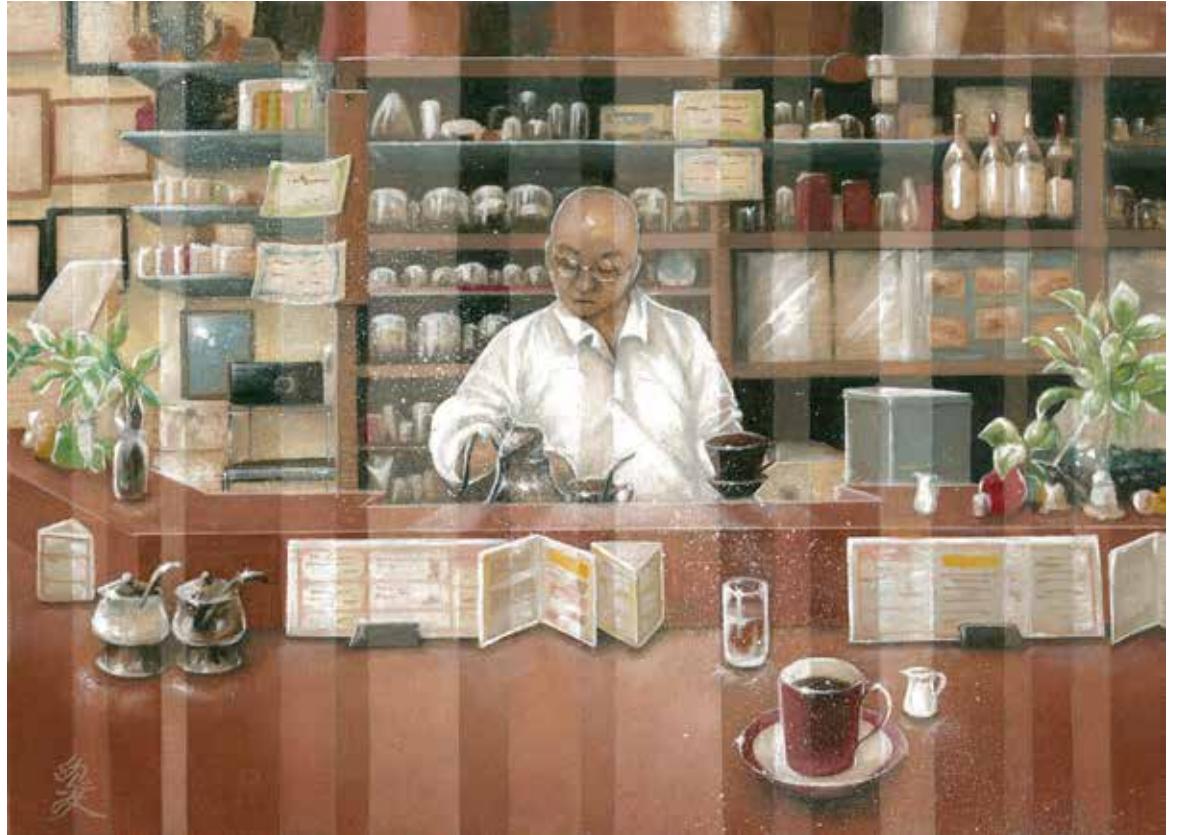




『東へ西へ』

第12回(最終回)
「日の名残り～モネと戸塚と文化的コモンズ～」

文 田中 啓介／画 大野 愛



純喫茶モネのカウンターで大ちゃんが淹れた珈琲「とつか宿（思茅～シモン～）」を飲みながら、最終回の原稿を書いている。画家の大野愛さんは、隣で「kaho*ブレンド」を飲みながら、絵の構想を練っている。（たぶん）

このカウンターには、いろいろな人たちが訪れる。地元の経営者の方、地域の環境保護活動をしている方、アーティスト、etc. etc. etc. 名刺を交換するときもあるし、挨拶するだけのときもあれば、ちょっと話をして、どこの誰とも知れぬ一期一会で別れる人もいる。もちろん、言葉を交わすこともなく、同じ場所で同じ時間にコーヒーをただ飲んでいるだけの人かはほとんどだ。

そういう場所が、戸塚駅の東口にある。そこに人が集う。

戸塚には、そういった文化的な拠点というか交差点のような場所がいくつもあって、地元の人が地域への思いを語り、交流し、発信し、それぞれがそれぞれの場所で活動している。それは、そこに区民文化センターができるずっと前からあるし、できた後もずっとそこにある。

大ちゃんが代表を務めるフリーステージ実行委員会が主催して毎年開催される交流会には、地元の産官学、アーティスト、NPOなど区内で活動する様々な分野の人たちが集まる。私も着任した年から毎年参加し、多くの地域の方々と知り合うことができた。区民文化センターが主催したって、これだけの人を集めることはできない。

そうした地域の力に触れながら、区民文化センターの立ち位置を考えていくことが重要なのだと思う。活用するとか啓蒙するとか、お互いにどっちがどうということもなく、ただ、その地域の人として対等に付き合い、お互いにできることを提供しあう。そういう健全な地域の在り方がこの町にはあって、たぶん、それはどんな町にも様々な形であるのだ！ ということを、この場所は思い出させてくれる。

人がそこにいて、情報が行き交い、そこから何かが始またりする。それは、日常の繰り返される長い長い時間の中で生まれて、そして、そこに町が息づいていく。

連載一覧

- 第1回 「吹上へ行く」 横浜蓄音機ミュージアム
- 第2回 「森を聞く」 ウィトリッヒの森、旧ウィトリッヒ邸
- 第3回 「悲劇の皇子と『鎌倉』を旅する」 王子神社、首洗い井戸、鎌倉宮（大塔宮）
- 第4回 「追憶の森へ（東戸塚）」 東戸塚駅前の今昔 《画：斎藤 真紀》
- 第5回 「目で聴く。耳で見る。」 作曲家 加藤 昌則氏と対談 《画：ロコ・サトシ》
- 第6回 LAST WILL AND TESTAMENT
「モモトセノ・ノチノ・キミへ
～百年後の『私』へ～」 保野別邸庭園（外苑） 《画：大野 愛》
- 第7回 「サロメとヘフトとゲーテ座と五月」 岩崎博物館・山手ゲーテ座 《画：大野 愛》
- 第8回 「保野別邸～『パーマネントと結婚十訓』
あるいは『1939年の片想い～』 保野別邸庭園（内苑）・保野別邸 《画：大野 愛》
- 第9回 「この町は、ここに始まる
～トツギヒコノミコトと失われた戸塚古墳群～」 富塚古墳・富塚八幡宮 《画：大野 愛》
- 第10回 「ミズキンバイと絶滅危惧の仲間たち」 ミズキンバイ（柏尾川） 《画：大野 愛》
- 第11回 「前橋 汀子さんを訪ねて」 前橋 汀子さんインタビュー



第4回 斎藤 真紀



第5回 ロコ・サトシ



第6回 大野 愛



第7回 大野 愛



第8回 大野 愛



第9回 大野 愿



第10回 大野 愿

田中 啓介
Keisuke Tanaka

(株)神奈川共立 施設管理部長。神奈川県公立文化施設協議会幹事（事業副委員長）。横浜市区民文化センター・市民プラザ館長会議議長。STスポット、栄区民文化センター、広島県三原市芸術文化センター、戸塚区民文化センターにおいて館長兼事業プロデューサーを歴任。



大野 愛／画家
Megumi Ohno

横浜生まれ、横浜在住。風景画をメインにシマシマ油彩画を制作。Ai名義で日本画も手がける。
《個展》
2017.12 『2人展 STARRY MIDNIGHT』
元町Bayside Cafeweb
2018.1 『Hope』中華街 CANTIK-MANIS
etc...



パパといっしょに アイシングクッキーで Xmasツリーをかざろう★

2017年12月10日(日)
男女共同参画センター横浜
(フォーラム)
可愛いアイシングクッキーを作りにたくさんのお友だちが
参加してくれました！

昨年12月に家族で楽しめるアイシングクッキー講座を開催！

会場はさくらプラザから徒歩3分「男女共同参画センター横浜(フォーラム)」の“生活工房”。
さくらプラザにはない調理の出来る設備が整っている場所をお借りして、
可愛くおいしいアイシングクッキーを作りました♪ パパ・ママといっしょに協力して楽しみました！



講師：日本アイシングクッキー協会インストラクター 川井まさ美

平成9年 調理師免許取得、平成14年川上タマミお菓子教室師範修了、平成22年 ウィルトンメソッド コース1、平成23年 ウィルトンメソッド コース2、ウィルトンメソッド コース3、ウィルトンアドバンスコース 1・2、平成24年 加藤千恵 洋菓子教室 基礎科、平成25年 加藤千恵洋菓子教室 応用科、平成26年 ウィルトンメソッド デコレーティングベーシック、ウィルトンメソッド フラワー&ケーキデザイン、ウィルトンメソッド ガムペースト&ファンダン、ウィルトンメソッド アドバンス ガムペーストフラワー、日本アイシングクッキー協会 認定講師。
平成27年 日本アイシングクッキー協会 認定インストラクター

アイシングクッキーとは、焼いたクッキーの表面にクリーム状になった砂糖を塗った甘いお菓子。
＊今回は先生が焼いてくれたいろんな形のクッキーに色を塗っていきました。



まずはアイシングの塗り方から教えてもらいます。
真っ直ぐに線を引くだけでも難しいんです。先生の技術に見惚れながら、真剣に先生の話を聞くこどもたち。
大人でもこどもでも最初は難しく感じてしまうけど、何回か練習するうちに出来るようになるんですよ♪



私も上手に塗りたいなあ…と思いつながらお父さんのお手本をじっくり観察。



お母さんもいっしょに楽しみながら塗っていました。
色鮮やかなアイシングにワクワク♪



納得いくクッキーになるようにお父さんと相談するけど、途中で意見が食い違うことも……！

こだわりぬいた作品は愛情たっぷり♪



完成！ クッキーの型が同じでも個性が光るアイシングクッキーの数々！
ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました♪



[会場]
男女共同参画センター横浜（フォーラム）2階生活工房
J R・横浜市営地下鉄「戸塚駅」西口 徒歩5分
〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1

しゅんさくの部屋

すきないいろが、じぶんのいろ
かみ さず つら がっさ
紙コップ鈴でつくる連なる楽器

こども向け講座
2017年11月19日(日)開催
練習室4



しゅんさくさんってどんな人？

「移動するアトリエ しゅんさくの部屋」を主催する現代美術家であり、
プロフィール欄には「様々な場所に突如出現する謎な自由過ぎる制作スポットを開催」とあるが、多くは謎だ。
インターネットで調べてみると、野外、室内問わず、子どもたちと様々な作品を作っている姿がうかがえる。

当日は10名の参加者！

1回目、2回目合わせて10名の子どもたちが講座に参加をした。
会場に入ってきた子どもたちは初めての空間に戸惑い気味。
そんな中、しゅんさくさんはマイペースに材料をビニールシートの上に広げる。
(正確には投げる)



「今日はね、紙コップで鈴を作るよ。まずは自分が思ったようにやってみな！ 1人10個くらい作らないと終わらないよ！」

というかけ声から講座スタート。
それまで固まっていた子どもたちは色々なものを手に取り、何やらムズカシそうな顔をしながらシールを集めたり、紙皿と紙コップをくっつけたり。



悩んでいるとしゅんさくさんが
「良いね、でもそれだと重くてつかないんじゃないかなー、こっちは？」
とアドバイス。子どもたちとコミュニケーションをとりながら、その子の個性を伸ばしていくのがしゅんさく流！ なのか？
約90分の間に、それが試行錯誤したオリジナルの鈴が10個とはいいかないが、
1人2～3個完成した。



さあ、展示しよう。

完成した作品を、さくらプラザスタッフと一緒に展示する子どもたち。
展示場所や高さ、作品の向きまで指定するその姿はもう立派なアーティスト。



展示は11/19～12/25まで行われた。

約1ヶ月の間、子どもたちが作った個性的な鈴がさくらプラザの壁を飾り、大きな楽器となった。期間中は実際に触って鳴らすことができ、お散歩中の園児や、利用者の楽しむ姿が見られた。



さくらプラザのクリスマスツリーの前でオルガンを使用したコンサートが行われました!

クリスマスツリー点灯式 2017 オルガンミニコンサート ～天使がツリーに舞い降りる～

毎年恒例のクリスマスツリー点灯式。
点灯式の前には電子オルガンによるミニコンサートを行い、さくらプラザ全体がまるで教会のような厳かな空間になりました。また、オルガニスト2人による連弾も披露され、荘厳な雰囲気から一転、華やかにコンサートを締めくくりました。



点灯式では、天使のようにかわいらしく森永さくらちゃんに点灯ボタンを押してもらい、3メートルの大きなツリーをライトアップ。
一気にクリスマス気分に……！
さくらちゃんは2018年に5周年を迎える
さくらプラザと同じ5歳で、戸塚在住。名前も同じなので今回点灯をお願いしました。プログラムの最後には声楽家の森永美穂さん(さくらちゃんのお母様)もお招きし、会場一体となって「きよしこの夜」を歌いました。



プログラム

- ♪D.ブクステーフェ／我が魂よ、今ぞ主を讃えよ BuxWV 214
 - ♪J.S.バッハ／キリエ、聖靈なる神よ BWV 672
 - ♪讃美歌メドレー／きよしこの夜・荒野の果てに・神の御子は今宵しも
 - ♪讃美歌／さやかに星はきらめき
 - ♪P.チャイコフスキイ／パレエ「くるみ割り人形」より“花のワルツ”(連弾)
- ☆全員合唱 きよしこの夜

森永さくらちゃん

オルガンと声楽で楽しむ クリスマスミニコンサート ～聖母マリアの微笑み～

クリスマスも近づき、12月には点灯されたツリーの前でオルガンと声楽のクリスマスミニコンサートを行いました！

点灯式に引き続き、オルガンは川越南美さん、ソプラノはさくらプラザ特待生である、音羽麻紀子さん。2つの異なるアヴェ・マリアを歌い上げてくださいました。深くてあたたかい歌声にうつとり……。

オルガンによる伴奏により一層心に響きました。

プログラム

- ♪J.ブラームス／11のコラール前奏曲 Op.122 より
第8番「一輪のばらが咲いて」
 - ♪讃美歌／Joy to the world! The Lord is come.
 - ♪C.グノー=J.S.バッハ／アヴェ・マリア
 - ♪J.ブラームス／5つの歌曲 作品49より 第4番「子守歌」
 - ♪P.マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より
間奏曲「アヴェ・マリア」
- ☆アンコール ホワイトクリスマス



最後にはクリスマスプレゼントのサプライズもあり、大人も子どもも、みんな笑顔になりました。
たくさんのご来場、ありがとうございました。



2017年12月15日(金)
16:00～16:20 開催

演奏: 川越 南美(オルガン)
さくらプラザ特待生 音羽 麻紀子(ソプラノ)

情報誌「SAKURA」約3年ちょっと続きましたTHE LEAPSの自称ご長寿連載……
卒業は新しい始まりだね♪
今回をもって涙・ナミダ・NAMIDAの最終回!!!
Memory 青春の光(元ネタ:モーニング娘。)スペシャルと題しまして
過去の連載を振り返ります♪

2018年2月某日。
さくらプラザ4階、練習室2に集合したTHE LEAPSのふたり。
テーブルに並べられた19冊の情報誌「SAKURA」。
3年でこれだけの冊数になるほど連載をしていたのでした!!!



これは“自称”ご長寿連載(笑)ではなく、真のご長寿連載を証明してくれるものとなりました。
最終回ということでセンチメンタル(感傷的)な気持ちにもなりますが……
過去の連載を振り返り、ふたりは「懐かしい～～～ !!!」とおしゃべりが止まらない。
初回の連載は2ページぶち抜き！



毎年11月に開催するつか区民祭りのレポート & 初めてのストリートライブの模様を赤裸々に綴った内容となっていました。
(写真が今よりちょっと若かった♡)
白バイにまたがる謎のサービスショット?もあつたり、
この頃からリープス印のハチャメチャパワー全開だったとは……。



～～2人の印象に残った取材～～

MAYOU: 私たちは戸塚で生まれ育った幼なじみ。同じ音楽教室(ハマヤ楽器)に通っていて、同じ先生から音楽を教わっていました。その先生に連載をおしてお会いできたことが印象に残っています！

NANA-A: 連載を続けていくにつれ、だんだんと戸塚で応援してくださる方が増えていくのが分かってすごく嬉しかったです。



中でも、さくらプラザで開催された“つかストリートライブ冬フェス・ガールズミュージック大会”がきっかけで「Rockin' TOTSUKA」というイベントに出演する素晴らしいご縁もいただいたり……

戸塚区出身だよ～って言ったことでこういうご縁に恵まれたので、もっと早く大々的に言つていれば良かったかなあって今は思っています(笑)。

前身連載の「行つたるチャン」そして「お稽古道場」を通してたくさんの応援や縁を感じることのできたふたり。

最後は「やっぱりロックンロールバンドなので！」という事でこの情報誌と同じ名前の楽曲「SAKURA」を3年分の感謝を込めて演奏しました。

(この様子はさくらプラザのYouTubeチャンネルでご視聴頂けます！)

**情報誌「SAKURA」読者の皆さん！ 3年間に渡つての長期連載、ご愛顧いただきありがとうございました!!!
またリープスちゃんと遊んでくれるかな～～!?
(続きはライブハウスで!!!)**

THE LEAPS(ザ・リープス)

横浜市戸塚区出身。Gt&Vo.MAYOUとDr&Vo.NANA-Aからなるギターとドラムの2ピースバンド。

3/11(日)には結成6周年ワンマンライブを横浜クラブセセッションにて開催。
■オフィシャルホームページ <http://theleaps.net>

さくらプラザをご利用いただいている団体の方の声をお届けするコーナーです。

しぶがき

●団体名：渋柿 横浜支部

●団体活動歴：38年目

●毎月 原則 第2日曜日13時～16時に練習室で句会を開催



下段中央が、横浜支部代表の谷本 清流さん。
俳句結社「渋柿」さんは、100年以上の歴史を誇る会だそうです。
この日は、「野焼き」「猫の恋」、そしてお願いをして「さくらプラザ」を題材に句を詠んでいただきました！（表紙にも使わせていただきました）
取材にご協力いただきありがとうございました。

シリーズでお届けした『吹奏楽の達人』もいよいよ最終回になりました。これまで興味を持って読んで頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

まだまだたくさんお伝えしたいことがある中、最後に吹奏楽の魅力、その醍醐味をお伝えしたいと思います。

楽器を演奏することは人間の生活にとってとても良いことだと思います。音楽をすることで頭を使いまし、もちろん身体も使います。何より管楽器は呼吸が大事ですから健康にも良いと考えます。よく「管楽器は肺活量がないとダメでしょう？」と言われますが全くそんなことはありません。自分の呼吸をどれだけ効率良く使うかが重要なんです。

今や吹奏楽愛好家の人口はとても増えていると思いますが、そのほとんどは学生時代に吹奏楽を経験した方がが趣味として楽器を続けていることが裏付けられます。

吹奏楽（管楽器）を少しでも経験したことがある方へ！ 家に眠っている楽器があったらケースを開けてもう一度吹いてみませんか？

自分には才能がない、と思ったら何も出来ないと思っています。

確かに楽器を演奏することは決して簡単ではないと思いますが、だからこそやりがいがある楽しいのでは。楽器に触ることで音楽への自然な親しみが生まれてくるのです。

前回吹奏楽のレパートリーの広さについてふれましたが、吹奏楽は管楽器のハーモニーとアンサンブルに打楽器がリズムを加えることで織り成す豊かでダイナミックなサウンドが何といつても魅力です！

Vol.11

渋柿 横浜支部



句会の様子

QUESTION

1. どんな活動をしている団体ですか？

俳句の魅力、俳句とともに生きる魅力にとりつかれた人たちが集まって交歓するグループです。

2. どんな方が参加していますか？

老若男女問わず、すべての市民に開放しています。初心者・ご高齢の方も歓迎！ 俳人協会会員3名が指導をしています。飛び入り参加・ご観覧もいただけます。

3. 活動のモットーを教えてください。

私たちの周りには季語が溢れています。朝起きてから寝るまでの1日を、俳句に詠んでみましょう。

4. さくらプラザを選んだ理由、おすすめポイントを教えてください。

JR戸塚駅からすぐで、雨の日でも傘無しで行ける便利な場所にあるということ。何よりも、ガラス張りで明るく開放的な部屋が素晴らしいと思っています。

句会として、明るい句が詠める環境ですね。

「さくらプラザ」を題材に一匁
駅近きさくらプラザや春の雪
春光やさくらプラザのカワセテラス
横浜の明かり映すや春の水
ショパン彈くさくらプラザに春めいて
春一番さくらプラザに咲き渡る
立春の饗宴のドア閉まる春

吹奏楽の 達人

Vol.6

最終回

トランペット奏者 杉本 正毅
Masaki SUGIMOTO



TBS系ドラマ「仰げば尊し」モデルである神奈川県立野庭高等学校卒業後、東京音楽大学で津堅直弘氏に師事。東京吹奏楽団で演奏する傍ら日本の主要オーケストラやミュージカル等、また海外アーティストのツアーでも演奏活動をしている。現在、東京吹奏楽団トランペット奏者、洗足学園音楽大学、上野学園大学各講師。日本トランペット協会常任理事。ナカザワキン野庭吹奏楽団音楽監督。

男は背中で物語る 戸塚見返親仁

商店のご主人など、戸塚区内で働いているオヤジ世代を紹介するコーナーです。

其之
二十九



公認地方卸売市場として、野菜や果物の卸売を行っている「戸塚青果市場」。より新鮮で美味しい野菜や果物を生産者の方からお預かりし、小売業者の方をつうじて消費者のみなさまにお届けしてくれています。

株式会社 戸塚青果市場
とつかせいかいちは
堀内 伝です。



親に逢いに行こう！

とつかせいかいちは

株式会社 戸塚青果市場

横浜市戸塚区沢尻町181

TEL. 045-871-2251

【営業時間】

火～金 5:30～14:00

※日・水 定休

次号の親仁は・・・？



一戸塚青果さんおすす
めの野菜、そしてとって
おきの野菜の食べ方を
教えてください。

地元で採れた野菜です
ね。今だと、"大根" "ブ
ロッコリー"。やはり旬
のものはおすすめです。

春菊も旬ですが、お鍋に入れるようなアグが強いものではなく、サラダで食べられる春菊もあるんですよ。

一小学校にも野菜を卸していらっしゃいますよね。

今は2班14校を担当しています。出来る限り地元の野菜を入れたい！ と学校にお願いしています。6月など野菜が多く採れる時期は、6～8品目くらい地元の野菜を入れています。今は、「採れている野菜で学校給食に使えるものはないか」というやり方ですが、今後は、生産者のみなさんに「学校給食に使う野菜を作ってください。」とお願いできるよう方法を考えているところです。

野菜が苦手なお子さまにお伝えしたいことはありますか？

食べず嫌いが多いのかな、と思うので、学校給食でいかにうまく食べもらえるか、を考えています。

無理に食べさせると、逆に嫌いになってしまったりするので、料理を工夫して食べてもらえば嬉しいですね。私は魚が嫌いだったんですよ。小さい頃、のどの骨をつまらせて…… 大人になってお酒を飲むようになったら、おいしく食べられるようになりましたね（笑）。

最後に、地産地消への想いを熱く語ってください！

やはり、「旬のものを食べていただく。」ことが一番の目的です。今、地産地消の他に「農福（のうふく）」ということも手掛けています。「農業」と「福祉」の連携ですね。地元の農家で採れた形の悪い大根などを安価で提供して、福祉施設の人達が一生懸命乾燥野菜を作ってくれて、それを売る。という流れも始めています。ネットワークも駆使しながら戸塚の農業の活性化を進めなければと思っています。

哀愁漂う後ろ姿から何処の親仁さんだろうと想像してみてください。次号では見返リポーズでお顔を公開します！

出張! 戸塚新聞

webマガジン「戸塚新聞」の出張版。戸塚区のディープな情報を
鋭意取材中！ 詳しくは「戸塚新聞」で検索！

#13 食
ユニークな店構えのトルティーヤ専門店
食工房「あうら」



TOTSUKA JOURNAL



今回取材したお店

食工房 あうら

<https://ibukinokaze.jimdo.com/>
045-443-9707
戸塚区深谷町857-4
営業時間：11:00～15:00
営業日：月～金

経営母体は就労継続支援A型事業所を運営している株式会社AULIA（あうら）で、障がいを持った方や支援する方が一緒に、和気あいあいと働いていました。

午前中はトルティーヤ作り、午後からはお菓子作り。
…続きを読むwebで

Information

「戸塚新聞」とは

戸塚区の情報満載のWebマガジン。知っているようで知らない「戸塚」の魅力的な情報を発信。戸塚新聞のすべての記事を読みたい人は「戸塚新聞」で検索！

戸塚新聞 検索



戸塚新聞 あうら

検索

さくらプラザコンサートスケジュール

アンコール JAZZ NIGHT

ジャズと映画の世界へ

Grace Mahya(ヴォーカル・ピアノ)、
渡辺 裕之(ドラム)、米木 康志(ベース)

3/23(金) 19:00

全席指定 一般 3,000円

ペアチケット 5,000円



好評
発売中

さくらプラザ 開館5周年記念

活動弁士・ピアノ演奏付 名作無声映画上映会

「チャップリンの冒険」「オペラ座の怪人」

澤登 翠(活動弁士)
新垣 隆(ピアノ)

4/13(金) 14:00

全席指定 1,500円



好評
発売中

さくらプラザ 開館5周年記念

劇団俳協 ミュージカル「あらしのよるに」

5/3(木・祝) 第1回 11:00／第2回 14:00

*第1回のみ未就学児入場可

全席指定 一般 2,000円

こども 1,000円 (小学生以下)

親子ペア 1,800円 (一般1枚+こども1枚)



好評
発売中



若林 顕 セルフ・プロデュース
ショパン・全ピアノ作品シリーズ

ショパンを巡る旅 2018-2020《全15回》

5/25, 7/27, 9/28, 11/16, 2019.2/8 (金) 19:30

全席指定

各回一般2,500円／学生 1,500円

シーズンシート(5公演セット) 10,000円

©Wataru Nishida

前橋 汀子プロデュース Vol.9

ヴァイオリン 珠玉の名曲集4

前橋 汀子(ヴァイオリン)

ヴァハーン・マルディロシアン(ピアノ)

6/10(日) 14:00

全席指定 一般 3,500円

区民 3,000円



まもなく
発売

さくらプラザ電話予約
3/10(土)14:00～
*窓口販売は翌日9:00から

※先行抽選予約は終了。キャンセル分・補助席・見切れ席を販売いたします。

予告 今後のコンサート・イベント予定

ロコ・サトシ 画業40周年記念展 5/30(水)～6/10(日)

ワンドードラムパフォーマンス 7/21(土)

清塚 信也 ピアノ・リサイタル 8/31(金) ほか

※現在の予定です。タイトル・内容等は変更になる場合がございます。

チケットはお電話 (045-866-2501) でご予約いただけます。(一部除外あり)
詳細はチラシをご覧ください。出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※学生券をお買い求めの際は学生証を必ずご提示ください。

こばんだウインズによる アンサンブルコンサート

3/28(水) 15:30

全席指定 1,000円



©有楽町朝日ホール(主催:朝日新聞社)

好評
発売中

同日開催

ばんだウインドオーケストラメンバーによる
管楽器クリニック

受講料 1,800円

*クリニック講師によるコンサートチケット代含む。

*クリニック参加者は講師コンサート公開リハーサルの鑑賞が可能です。



対象 中学1年生～高校3年生

(2018年3月時点／楽器を持参できる方)

一今注目すべき二人が贈る、極上のデュオ—

趙 静 & 阪田 知樹 デュオコンサート

趙 静(チェロ)

阪田 知樹(ピアノ)



好評
発売中

5/9(水) 18:30

全席指定 一般 3,000円

ペアチケット 5,000円

4年にわたる「ベートーヴェン・ピアノソナタ全曲シリーズ」
が、2017年11月 好評のうちに終了したピアニスト若林顕。
その熱も冷めやらぬまま、3年にわたる新たなシリーズが
スタートします。

Ticket さくらプラザ電話予約
シーズンシート 3/17(土)14:00～
各公演単独券 3/24(土)14:00～
*窓口販売は翌日9:00から

まもなく
発売

名曲サロン シリーズ

4/24(火) Vol.13 ピアノを楽しむ時間



林 朝美(ピアノ)

第1回 11:30／第2回 14:30

全席自由 各回 800円

会場:リハーサル室

好評
発売中

6/23(土) Vol.14

荒川 洋 & 荒川 知子 ファミリー・アンサンブルコンサート
(新日本フィル リコーダー)
(副首席フルート奏者)



出演:荒川ファミリー

14:00

全席指定 一般 2,500円

こども 1,000円(3歳～中学生以下)

親子ペア 3,000円(一般1枚+こども1枚)

会場:ホール

まもなく
発売

Ticket さくらプラザ電話予約
3/14(水)14:00～

*窓口販売は翌日9:00から

戸塚区民文化センター さくらプラザ

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17 戸塚区総合庁舎 4F

<https://www.totsuka.hall-info.jp>

event@totsuka.hall-info.jp

編集後記 今号の表紙は2017年「横浜文化賞文化・芸術奨励賞」を受賞した若手ピアニスト阪田知樹さんと
チェリスト趙静さん! 極上のデュオをお楽しみに!(桑田)

SAKURA
さくら

Vol.28

3・4月号



掲載された方には、お好きなさくらプラザ主催公演
チケット*をプレゼント!

*ご要望に沿えない場合もございます。あらかじめご了承ください。

●氏名 ●掲載用ペンネーム ●ご住所 ●お電話番号 を必ず記
載の上、郵送もしくはメールにてお送りください。

※ご記入いただいた個人情報は、当コーナーの目的以外には使用いたしません。※200文字程度におまとめください。

※誌面の都合上、原稿を一部修正させていただくことがあります。